The Zoological Society of Japan

短かゝらざる生涯中，朝に夕に，教室に於て，實驗室に於て，臨海實驗所に於て，採集ボート中で，故人に接觸した數千を以て數ふ可き純眞なる心の持主たる學生—假面と虛裝とを極度に嫌ふ學生—言葉よりも相手の動機を了知する事に鋭敏なる學生—雄辯なる人，堪能なる人よりも至誠なる人を愛し且つ誠實の有る所へは必ず自然に牽引せらるゝ學生等が如何に貴重なる眞實の教育を受納したかと云ふ事を，考察する事は難事ではないと思ふ。斯樣にして故人は，數多き人々の心の中に，七生までも存在せらるゝ事を疑はぬ

第一高等學校教授時代の五島先生

畑井新喜司

先生が第一高等學校に教授として奉職せられたのは明治29年9月で，30歳の元氣盛りの頃でありました。丁度米國の留學から歸られた許りの時であつたので私共の目には何となく洋行歸りらしく見えました。例へば洋服の着具合ひや，小さなマントの着いてゐる外套を用ゐて居られたことや，教室に入られると直ちに毛織製のスリッパに穿き替へられたことなど其當時の私共としては誠に珍らしく感じられたもので，只今でもその頃の御姿をマザマザと想ひ出すことが出來ます。物事總べてに大變規律正しかつた事なども，日頃無頓着な先生方を見馴れてゐる私にとつては「外國に行つた人は流石に違つたものだ」と時折考へさせられたことも思ひ出の一つであります。毎日決まつて9時頃に出校せられ，晝食には30分許りを費され，其他の時間は總べて側目もふらず御熱心に研究せられて，午後の5時頃には御歸へりになるのが日課のやうでした。

其頃の一高の生物學教室の設備狀況と言へば至つて不完全なもので，參考書とても古いものばかりで近刊のものは殆ど無く，講義用の掛圖の如きも使用出來るものは數へ得る程で之亦不備，顯微鏡に至つては簡單なツァイス製のものが2臺にミクロトームもセロイヂン用の型のがある位，それに講義の際に學生に示すべき實物標本も頗る不足でありました。先生が赴任せられてから早速是等の充實に骨を折られ，私などは毎日毎日掛圖を描かされたが，時には谷津君の手を煩はした事もあつたと記憶してゐる。又休日には必ず標本採集に出掛けましたが，時には先生のお伴をし，時には私だけで出掛けて備付標本の充實を圖りました。

私が先生の下に奉職間もない頃，先生より日本の陸產蚯蚓を調査しては如何と話されたので，時間の餘裕ある毎に蚯蚓の採集や研究等に沒頭したのでしたが，先生も大變に熱心に指導して下さるし，又多くない教室の圖書費からビッタート氏の蚯蚓のモノグラフなどを英國から取り寄せて下さつたりして大いに奬勵して頂いたことは，今日でも感激に堪へない一つであります。

其頃先生等の御盡力で動物學彙報が出版せられることになり，差當り先生が編輯長，校正係り兼發送係りで，つまり先生一人の力で此仕事をせられたので，從つて助手である私も發送係りを命ぜられて隨分と多忙を極めたものでした。

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

先生は元來無口に近い方であつたので終日默々として自分の仕事に沒頭せられ，一日を無言で送られることは珍らしくありませんでした，丁度彙報の出た頃ヤドカリに寄生するヒドラを研究して居られましたが，それから先生の興味がクラゲ全體に及び，岸上先生からお借りしたヘッケルのクラゲの本の圖版を先生自身毎日毎日複寫して居られたが，殆ど疲勞の色もなく遂に何ケ月かを費されて其本の圖版全部を寫し終へられたのを見て，其御熱心と御精力には唯々驚嘆するより外ありませんでした。其頃の先生は殊に相かわらず至つて無口で，お早う以外に言葉を交せられる事のない日が3,4日も續くことは珍らしくありませんでした。先生が斯樣に勤勉家であつたので私も知らず識らずの中に感化を受ける事が出來たことを今日まで感謝して居るのであります。此外先生の勤勉振と熱心振の一例を擧げますと，一冬先生と三崎實驗所で，ウニの人工受精を實驗したことがありますが，受精したウニの卵を入れた硝子鉢の水を取り換へる譯にいかぬので，どうしても鉢の水の中に空氣を送り込まなければならぬ。先づスポイトの先きに硝子管を付け其先端に黑炭を結びつけてスポイトを握り空氣の泡を送るのであるが，此操作を15分おき位にやらなければならぬので硝子鉢を宿屋に持ち歸へつて，殆ど二晩程少しも眠らずに此仕事を續けられたものです。而も確か3月下旬頃の未だ寒い夜を火鉢なしに，夜中二晩も之を續けられたのですが，其時の先生の根氣と熱心には心から敬服して仕舞ひました。私もウニの卵の人工受精などは實に珍らしかつたので，先生と共に完全に二晩も眠らずに元氣にやつたのですが，更にもう一晩此實驗を續けなければならなかつたとしたら，先生より先に居眠りをやつたことであらうと餘計な心配をしたものです。

先生は斯く勉强家であつた上に又一面にはなかなかのやかましやであつて，日本文で論文を書くと文法が間違つて居るとか，外國文で論文が書かれぬ位なら學問を止めた方がよいとか，動物を解剖して居るとそんな手の動かしやうでは動物學をやる資格がないとかといふ具合に小言を頂戴したものであります。其頃年若な私としては誠に殘念で殘念で堪らぬ氣持ちでありましたが，此御小言は先生と2人切りで教室に居る時に容赦なく嚴しく申されたもので，先生は決して他人の前では一言も小言らしいことを申されぬばかりか，寧ろ褒めて下さる位で，此ことに就ても人知れず敬服してゐました。そして又先生は學問以外の事では全く別人のやうに鷹揚で兎や角申されませんのみか，教室内の事務方面に關しては全部私に委せ切りでありました。無論高等學校の生物學教室の經費は何程もなかつたと思ふが，然し私共の買物の内容を一々見もせずに認印を捺されるのが常で，時には十數枚へ捺印し，私に預けて置いて適當にやれといふ有樣でありまして，こんなところに又先生の御性格の一端が覗はれてなつかしく偲ばれます。研究上のことに就ても2年目あたりから殆ど御小言を聞かぬ樣になり，加之驚く程親切に指導して下さる樣になつたので漸く樂んで研究をするといふ氣分になりましたが，最初の1年間の小言が餘り嚴しかつたので，其頃を思ひ出すと何だか先生から小言ばかり頂戴して居つた氣持ちが未だに除けません。今は其御小言もなつかしい思ひ出の種です。

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

其頃の先生は恐らく研究に熱中せられたせいか無口の上に減多に笑ひ顔を見せられないものですから，謹嚴な先生として學生なども餘り寄りつかなかつたやうに見受けられました。然し先生と2人で採集旅行などに出掛けると全く變つた人のやうに高笑ひもなされば，又戯談も語られ，こわくない先生でありましたが，こんな機會を得られなかつた學生には恐らくこわい先生として眺められてゐたことであらうと思はれます。私は教室で先生の高聲で笑はれたのを一度だけ見た記憶があります。それは私が矢部君(矢部長克教授)と植物採集に出掛けた途中のこと，斷りなしに大學の寄宿舍の前の庭に採集胴亂を肩にして入つて來た所を寄宿舍の巡視に捕へられて，何用あつて無斷で入つて來たかと尋問されたのです。何程說明しても承知してくれなかつたのであるが，漸く舍監の取り計ひで放免されて教室に歸ることが出來た。それを先生にお話ししたところ破顔一笑大きな聲で笑はれました。何處が可笑しかつたのか私にも解らなかつたが，私が2ケ年助手として在職中教室內での先生の高笑ひはこれが1回だけでありました。

先生は又なかなか思ひ遣りの深い方でありました。何時か先生と筑波山に採集に出掛けたことがあつたが，頂上を極めて下山する際，途中で道を間違へて筑波山下の私共の辿り着くべき村から2,3里も離れた別の村に到着したことがあります。丁度暑中の眞盛りの時で身體も疲勞してゐたので茶店に入つて御茶を飲んで休んで居つた間に，私は堪らなく睡魔に襲はれて先生の前をも忘れて前後不覺，横になつて眠つて仕舞つたのであります。其時先生は別に私を呼び起さうともなさらず，殆ど私が2時間位も眠つて目覺めたところ，先生が「よく眠つたね，夕方になつたからこれからそろそろ出發しませう」と申されたのであります。私が眠つて居る間先生は話相手もなく，ぼんやりと田の方を眺めて私の自然に目覺めるのを待つて居られたのでした。こんな具合に先生はなかなか思ひ遣りの深い人でありました。

又先生は文學や美術に興味を持たれ，上野に美術展覽會がある時にはよく誘はれて一緒に見物に出かけ，西洋の美術や美術展覽會の模樣などを話されたことを記憶して居ります。又私が明治33年アメリカに留學することに決つた時には先生は態々教室に洋服屋を呼んで私の洋服の注文迄を注意せられ，假り縫ひの時には態々それを見て下さつたり，又私に最近外國で作つた洋服のズボンを下さつたり，留學の心得を幾遍となく說いて下さつたり，親が子供を旅に出すやうに世話して下さいました。

このやうに先生は一面には嚴格その物でありましたが、又一面には人情に厚い人でありました。然し先生の人情に厚い點を先生の一生中知られず居られた人も澤山あつたらしいと思ひます。

先生についての思ひ出は盡きませんが私の記憶に比較的はつきりして居る點だけを認めて先生への追慕と致します。

NII-Electronic Library Service